

さがみホネホネ団始動の経緯について

秋山 幸也

はじめに

相模原市立博物館では現在、動植物資料収蔵庫において鳥獣の本剥製及び仮剥製標本を約 350 点収蔵している。これらは剥製製作者へ委託して制作したもののほかに、剥製の状態で寄贈を受けたものと、職員及びボランティアにより制作されたものが含まれる。

剥製の製作は特殊な技術が必要であるとともに、その過程において極めて多くの学びがあり、剥製を制作するための検体（動物遺骸など）は学習素材として膨大な潜在的情報を含んでいる。

当館では 2014 年頃からこうした剥製（仮剥製）の製作をサークル的なグループ活動として実施してきており、2024 年からは「さがみホネホネ団」（略称：さがホネ団）と名称を定め始動した。本稿では、当館の専門市民グループとしての立ち位置を明確にするために、その成り立ちとこれまでの経緯について記録を残すこととした。

1. これまでの経緯

①市町合併に伴う検体の増加と活動の開始

相模原市立博物館は 1995 年の開館当初、動物を担当する学芸員は無脊椎動物が専門であったため、自館で鳥獣の仮剥製などを作る活動はしておらず、専ら剥製業者へ委託して数年に一度程度の頻度で本剥製を数体ずつ増やしてきた。

しかし、2006 年から 2007 年にかけて相模原市は市町合併により市域が広がり、当館を中心とした組織的な学術調査も行われるようになったことと、同時に進行した旧相模原市域を対象とした『相模原市史 自然編』（2009 年）及び旧津久井町域を対象とした『津久井町史 自然編』（2013 年）の調査等により、生物資料の採集数が飛躍的に増加した（相模原市総務局総務課市史編さん室 2009；相模原市立博物館市史編さん班（津久井町史担当）2013 など）。

そして 2014 年には冷凍庫にたまった検体を処理する必要に迫られ、仮剥製の製作技術を持つ人材をアルバイトとして雇い、定期的に仮剥製の製作を行うようになった。すると、製作方法を学びたい近隣の学生が集まり始め、サークル的な雰囲気ができてきた。そこで、このグルー

プを博物館の専門ボランティアグループとして位置づけ、「相模原動物標本クラブ」をスタートさせた（図 1）。



図 1 「相模原動物標本クラブ」初期の活動の様子（2015 年）

②標本士による指導

その後、ドイツの標本作成の専門学校で学んだ相川稔氏が近隣に住まわれていたことから、相川氏に本剥製の製作を依頼し、標本クラブの活動日に合わせて来ていただけることになった（図 2）。すると、プロフェッショナルの技を学びたいと集まる人もさらに増えて、活動は活況を呈した。

しかし、2018 年に相川氏が再びドイツ国内の博物館に職を得て渡独したことや、当初からの中心メンバーも遠方に就職するなどしたこと、さらに 2020 年初頭からコロナ禍となったことから、活動の休止を余儀なくされた。



図 2 標本製作中の相川氏

③ポストコロナとさがホネ団の始動

しかしコロナ禍においても、市内の光明学園相模原高等学校理科研究部及びその顧問の下口直久教諭の活動を中心として断続的に活動していたため、コロナ禍が開けて改めて正式に活動を再開しようという機運が高まった。そこで、大阪市立自然史博物館を拠点に活動する「なにわホネホネ団」の派生的な活動グループが全国に存在することから、それに倣って「さがみホネホネ団」としてリスタートすることになった。

2. 現在の活動状況

①フクロウチーム

2022年から、さがホネ団の活動とは別に「フクロウ食性分析作業」を博物館で実施してきた。これは、公益財団法人日本鳥類保護連盟と連携しているもので、フクロウの巣箱の巣立ち後の残渣物を回収し、鳥獣の骨や羽毛を取り出して分析することで餌内容を明らかにする調査である。主に残渣物からの取り出しと分類、計数を活動の中で行っている（図3）。



図3 フクロウチームの活動の様子

この活動は当初、試験的に任意の活動として進めてきたが、さがホネ団を始動するにあたり、相互の活動に親和性のあるこれらを合わせることにした。さがホネ団の中に「フクロウチーム」を位置づけ、現在、月に1～2回のペースで活動している。

フクロウチームでのみ活動するメンバーもいるが、多くのメンバーは横断的にさがホネ団の活動にも参加している。

②さがホネ団の現在の活動頻度と構成

さがホネ団の標本作成を行う本体の活動は、月に1～2回程度の頻度で行っている。団員となるには、別表のような案内のもと、クリハラリスの仮剥製の製作を最初

に体験することを条件としている。参加希望を表明しているものの、この製作未経験の場合は仮入団という扱いになる。仮入団を含めた団員数は約50名である。これは連絡に用いているメールグループの登録アドレス数であるが、学校の部活動のメンバーについては顧問の教員を通じた連絡を行っているため、実数はもう少し多くなる。

このように明確な名簿を作製していないため、実数は把握できていないものの、毎回の活動日にはおおむね10数名が参加している。小学生、中学生の参加も毎回あり、高校生や大学生とそのOBも含まれるため、比較的若い年代の団員が多い（図4）。

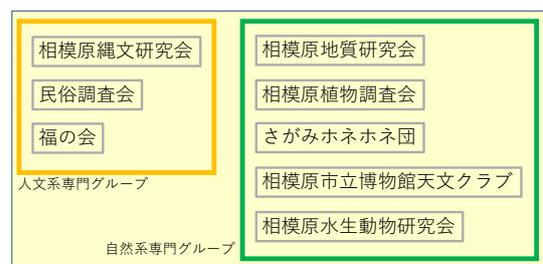


図4 高校生を対象としたクリハラリスの仮剥製製作講習会の様子

③活動において留意している点

総合博物館である当館では、他分野にも複数の市民グループが活動している（図5）。解剖専用の部屋も無いため、活動は専ら2階の実習・実験室で行っている。標本作成や解剖に抵抗のある人への配慮も必要となるが、それでも、高齢者が多い博物館の市民グループの中で、中高生や大学生が中心となった活動は博物館の運営上も極めて好ましいことと評価されている。

相模原市立博物館の市民グループ



市民学芸員 博物館のイベント全般の企画・補助を行うグループ

図5 相模原市立博物館の市民グループ（2024年現在）

3. まとめ

これまでの経過を図6にまとめた。相模原動物標本クラブから数えてもまだ10年余りの活動であるが、その中で頻繁に耳にすることがある。それは、「鳥獣の標本作製技術を学びたい、体験したいが、なかなかその機会が無い」というものである。生物関係の集まりや情報交換の中で特に頻繁に聞く。これは、そうした設備や道具はもとより、解剖作業を行うことのできる場自体が身近に無いことが要因である。標本作製の志向は生き物好きの児童・生徒の中にも一定数あり、その受け皿が不足していることは間違いない。解剖や標本作製の指導は少人数で行うしかなく、そのニーズを満たすのは容易ではないが、少しずつであっても、息長くさがみホネ団の活動を継続していくことが必要であると考えている。

さらに、さがみホネ団の中にフクロウチームがあるように、「標本」を軸に様々な志向に合わせた派生的な分派活動が行える雰囲気を保ち、多様な活動へと広げていきたい。

さがみホネ団の活動は、地域の生物多様性情報の証拠資料として極めて重要な標本資料を、自前で作れるという利点がある。今後も標本の学術的な意義を浸透させつつ活動を続けていきたいと考えている。

引用文献

相模原市総務局総務課市史編さん室 編,2009.相模原市史調査報告書2 動植物調査目録,505pp.相模原市,神奈川県.

相模原市立博物館市史編さん班(津久井町史担当)編,2013.津久井町史調査報告書 津久井町の動物,69pp.相模原市,神奈川県.

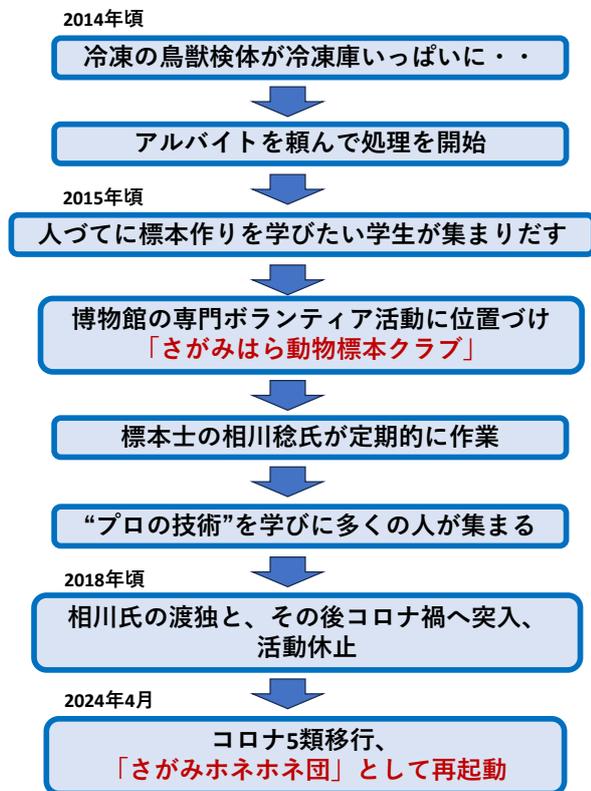


図6 これまでの経過

別表 入団案内



「さがみホネホネ団」に入りませんか！



動物の死体から標本作製して残してゆくことは、その地域の自然史を残す上で、欠くことが出来ない重要な活動です。また、標本の作製に携わることで、動物のからだのつくりを細かく観察することができるなど、教育的効果は高いと言えます。動物標本の作製について興味を持たれている方は決して少なくありません。しかし、動物標本作製が出来る環境は必ずしも多くなく、特定の場所に限られてしまいます。

相模原市立博物館では、博物館に搬入された動物の死体(検体)を標本として残すためにボランティア活動を行っている「相模原動物標本クラブ」(通称:スカベン)というグループがあります。このグループでは、市立博物館の冷凍庫に収められている検体を仮剥製や骨格標本として博物館の収蔵庫に収め、各種イベントや展示・教育普及活動で活用できるよう取り組んでいます。

関西には、大阪市立自然史博物館を活動拠点としている「なにわホネホネ団」という動物標本作製するボランティア団体があり、日々標本作製活動に取り組んでおられ、団員数も多く活発な活動を行っています。この「なにわホネホネ団」になって、関東圏でも動物標本作製する一つの拠点として、相模原市立博物館の動物標本クラブ(スカベン)の名称を「さがみホネホネ団」と改め、標本作製活動の輪を広げていきたいと思えます。興味のある方は是非、一緒に活動をしましょう！ よろしくお願ひします。

活動の内容

- 哺乳類の死体から毛皮と骨格の標本作る。
- 鳥類の皮をむいて、仮剥製や本剥製を作る。
- 交通事故死体(ロードキル)など、動物の死体を集めて、標本として保存する。
- 作った標本は、原則として相模原市立博物館に収める
(自分で入手した死体を、自分で標本にすることも可能です。)
- 各地のイベントに出かけて行って、死体を標本として保存する必要性の普及をはかる。
- 海岸などに、落ちている死体を拾いに行く。時には、両生類、爬虫類、魚類の皮剥きや骨格標本作りもします。
- 博物館内外イベント(「学びの収穫祭」、「ホネホネサミット」等)への参加、活動紹介など。



◆ 活 動 日 : 毎月1~2回程度(メーリングリストで連絡)

◆ 活動場所: 相模原市立博物館実験実習室 (相模原市中央区高根 3-1-15)

入会について

動物標本作製に興味のある方ならどなたでも入会可能です。

ただし、動物の遺体を扱う作業となりますので、血液や内臓などに対して抵抗が強い人はご遠慮ください。

また、メスなどの解剖器具を扱いますので、小学生以下のお子様の場合には保護者の方の同伴をお願いします。

入会方法

入会を希望する方は、「さがみホネホネ団事務局」(sagamihonehone@gmail.com)までご連絡ください。その後、一度会に参加いただき、クリハラリス(タイワンリス)の皮むきを体験していただいた上で、本入会とさせていただきます。